



殺虫・殺菌剤
硫黄・銅水和剤

サンケイ 園芸ボルドー

農林水産省登録 第4407号

性状：淡緑色水和性粉末

毒性：普通物（毒物及び劇物に該当しないものを指している通称）

危険物：非該当

有効年限：5年

包装：500g×20

有効成分：硫黄・・・・・・・・・・25.0%
塩基性塩化銅・・・・・・・・・・61.0%（銅として35.0%）

殺虫剤分類	UN
殺菌剤分類	M2, M1

特長

- 本剤は無機銅と硫黄を有効成分とした薬剤で、無機銅は広範囲の病害に対し効果を発揮し、高い保護作用があります。また、硫黄はうどんこ病などに高い殺菌効果を示します。
- トマトサビダニ、ミカンサビダニ、チャノホコリダニにも高い殺虫効果を示します。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	硫黄を 含む農薬の 総使用回数	銅を 含む農薬の 総使用回数
かんきつ	ミカンサビダニ チャノホコリダニ	500倍	200～ 700ℓ	—	—	散布	—	—
	そうか病 かいよう病 黒点病	400～ 800倍						
なし	黒斑病	400～ 800倍	200～ 700ℓ	—	—	散布	—	—
	黒星病	500倍		収穫後～ 発芽前				
もも	せん孔細菌病	500倍	200～ 700ℓ	収穫後～ 発芽前	—	散布	—	—
小粒核果類	かいよう病	500倍	200～ 700ℓ	収穫後～ 発芽前	—	散布	—	—
キウイフルーツ	かいよう病	500倍	200～ 700ℓ	—	—	散布	—	—
りんご	うどんこ病	800倍	200～ 700ℓ	—	—	散布	—	—
ぶどう	黒とう病 つる割細菌病 さび病 灰色かび病	500倍	200～ 700ℓ	—	—	散布	—	—
	べと病 うどんこ病	800倍						
	べと病	4倍	1ℓ			無人航空機 による散布		
		40倍	10ℓ					
	褐斑病 晩腐病	400～ 800倍	200～ 700ℓ	散布				
たまねぎ	軟腐病	500倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
豆類(種実) 豆類(未成熟)	さび病	400～ 800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
ばれいしょ	疫病 夏疫病	400～ 800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	硫黄を 含む農薬の 総使用回数	銅を 含む農薬の 総使用回数
うり類 べぼかぼちゃ (種子)	べと病 炭疽病 うどんこ病	400～ 800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
かぼちゃ	果実斑点細菌病	500倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
きゅうり	斑点細菌病 褐斑病	500倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
トマト ミニトマト	疫病	400～ 800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
	うどんこ病	800倍						
	葉かび病 すすかび病 トマトサビダニ	500倍						
いちご	うどんこ病	800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
てんさい	褐斑病	800倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—
ごま	うどんこ病 斑点細菌病	500倍	100～ 300ℓ	—	—	散布	—	—

使用上の注意事項

- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 高温時のうり類に対する使用は、薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 広範囲の殺虫剤、殺菌剤と混用できますが、強アルカリ薬剤との混用はさけてください。
- マシン油乳剤との混用はさけてください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - 散布に当っては、散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 散布液の飛散によって桑及び自動車やカラートタンの塗装等への影響を与えないように十分注意してください。
 - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - 水源池、飲料用水、養殖池、養魚田等に本剤が飛散流入しないように十分注意してください。
 - 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
 - 作業終了後は次の項目を守ってください。
 - ・使用後の空の容器は放置せず、適切に処理してください。
 - ・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- かんきつに使用する際は、薬害軽減のため炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- 本剤は蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- いちご及びぶどうに使用する場合、連用散布により葉に薬害を生じるおそれがあるので、注意してください。また、果実に汚れが残るおそれがあるので、着果期以降の散布は注意してください。
- 巨峰系（巨峰、ピオーネ）に対しては、散布時期によっては葉及び果実に薬害を生じるおそれがあるので、袋かけ前などの散布には注意してください。
- なしに使用する場合、若葉の頃の散布は薬害を生じるおそれがあるので、有袋栽培の大袋掛以降、新梢の伸びが停止してから散布してください。また、二十世紀以外の品種では果実着生時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- りんごに使用する場合は、薬害の発生が懸念されるため必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。また、複数回散布によって薬害を助長することがあるので注意してください。
- 新梢、葉に対する薬害軽減のため、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- そらまめ、未成熟そらまめへの使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用してください。作業後は洗眼・うがいをしてください。

水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。